

# あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.  
16

2011 皐月・水無月



2011年度事業方針

地域社会に根ざした  
金剛禅活動充実に取り組む

# 地域社会に根ざした 金剛禅活動充実に取り組む

金剛禅総本山少林寺 宗務部

## ◆2011年度事業方針

事業方針は、次の4つです。

- (1) 組織機構改革全体の点検を行い、必要に応じて調整を図る。
- (2) 少林寺拳法グループのビジョンの下、より一層の少林寺拳法の価値と信頼性の向上を図る。
- (3) 本山ならびに道院の布教体制の点検と、更なる門信徒の教化育成、布教の充実に図る。
- (4) 開祖生誕100年事業を施行する。

## ◆事業概要(重点実施項目)

続いて、2011年度の特に重点的な実施項目を以下のとおり定めま

### (1) 組織機構改革施行に伴う詳細補足 点検整備の実施について

・金剛禅の更なる充実を図るべく、教化育成、布教のための各種講習会を実施する。

・本山内(役職員)の意識改革、内局体制の最適化、経常経費の削減。  
・本山内の人事、労務、給与、予実管理システムの構築。  
・運営指導対応者の減少の具体化を図る。

### (2) 開祖生誕100年事業の実施について

・本山所有建造物修復などの寄付金制度を具体化する。

### (3) 少林寺拳法の価値と信頼性の向上

### (バリエーションアップ)の継続について

・商標使用申請業務、シンボルマーク・ロゴプレート表示の推進(継続)、都道府県バリエーションアップ推進委員との連携を図る。

・危機管理からの観点も合わせた、門信徒(指導者・拳士)の安全管理、セクハラ・パワハラ・アルハラ防止、個人情報保護活動、薬物使用防止などの啓発活動。

\* \* \*

本年4月1日をもって、少林寺拳法グループの組織機構改革が施行されました。しかしながら、それに伴う新方式での事務手続きにおきましては、アクセスができないなどの不

具合により、皆様には多大なご迷惑をおかけいたしました。紙面を借りて深くお詫びいたします。

本法人といたしましては、グループの一員として、「人づくりによる国づくり」という宗道臣(開祖)の志を基に、地域社会にしっかりと根ざした金剛禅運動に取り組むたいと思

います。  
その一方で、東日本大震災によって被災された地域の方々の復旧、復興の支援活動も、鋭意進めていきたいと思

います。  
全国の道院長の皆様、門信徒の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 2010年度本山行事報告

2010年度に本山で開催された主な行事について、以下のとおり報告する。

① 道院長研修会…本山で4回、熊本(九州・沖縄地区)、札幌(北海道・東北地区)でそれぞれ1回開催した。2011年4月より施行される少林

寺拳法グループ全体における組織機構改革の具体的内容と、それに関連する制度の変更に關する講習を行い、受講者との質疑応答にも多くの

時間を取ることによって理解を促した。併せて、道院長(布教者)のあり方、道院運営や門信徒の教化育成のあり方に関する講習も重点的に行い、「金剛

禅の充実」をテーマに研修を行った。

②道院長資格認定研修会…2回実施し、46人が受講した。道院長になるにあたっての心構えや使命感に関する講義、各種手続き方法に関する講義を行った。これらに加えて、組織機構改革に関連した講義や金剛禅教学に関する講義を重点的に行い、実技と面接の審査を実施した。

③認証式…新たに76人が道院長として認証された。式典では全体で誓願文の奉読を行い、浦田代表から認証書の辞令とともに、激励の言葉を受けて、道院長としてのスタートを切った。



④僧階補任講習(前期、後期)…2回実施し、26人が受講した。日が昇りきる前の清浄な空気の中で作務、鎮魂行を行い、続いて少林寺拳法修行法(易筋行)を行った。そして『指導



者論』『教学原論』など教学に関する講義や儀式実習・法話演習・法座の実習を行い、補任請願者には僧階辞令が授与され、金剛禅運動の布教者としての使命感を新たにしました。

⑤講習会(1次、2次)…開祖の志を自分の志とできるよう、「志を立てる」をテーマとして2回実施し、490人が受講した。僧階講義をはじめ、剛法・柔法では基本法形から運用法、演武修練までバランスよく行った。ほかにも2011年4月より施行されるコース制の体験プログラムや四段以上の拳士を対象に羅漢圧法の講習も行った。グループ制を取り入れ、班長を中心に「志」についてのディスカッションも活発に行われた。

⑥宗道巨塾(ステージゼロ1次、2次)…開祖が何のためにこの組織を

創ったのかという原点に戻り、自分のあり方を見つめ直すとともに、自らの志を立て、それを日常生活の中で実践しながら人間力(人の質)を高めていくこと、更には、人や社会に役立つ人間へと成長していくことを目指すべく、気持ちを新たにしました。

⑦少年部指導講習会…少年部指導に携わる102人の拳士が受講した。道院長研修会での要望を受けて、楽しみながら基礎体力や運動能力の向上が図れる準備体操を紹介し、また最近さまざまに研究されている発達障害に関する講義を中心に行った。

そのほかにも少年部指導に関する講義、指導技術の紹介と研究を行い、少年部指導技術の向上を図った。

⑧本山考試員・審判員研修会…より質の高い考試・審判技術の向上と、新しい資格制度における試験方法、新しい試みである拳系指定組演武の採点方法の周知を目的として開催し、112人の本山考試員・審判員が受講した。

⑨達磨祭…「あなたと私と少林寺拳法と」をテーマに開催された。本尊である達磨大師の遺徳を偲ぶ法要では、初の試みとして一般開放を行い、500人が参列した。また演武会では多くの拳士が参加し、さまざま

まな催し物が演出されたステージをはじめとして、本山内各所に出店が並び、約3000人の来山者で賑わった。地元で少林寺拳法を強くPRすることができた。



⑩新春法会…本堂にて行い、約800人が参列した。教典唱和、代表年頭挨拶に続き、道院長勤続表彰、グループ表彰および感謝状の授与、門信徒代表挨拶などを行った。また、演武会、稽古始めも催され、本山施設内は多くの道院長、拳士で賑わい、開祖生誕100年にあたる2011年の幕開けを皆で祝した。

⑪帰山…7回実施し、1401人が帰山した。宗門の行である少林寺拳法の修練や金剛禅に関する法話に加え、拳士の家族や保護者を対象に子育てに関するプログラムも併せて実施した。

● 2011年組織図 ●



**道院長資格認定研修会  
より一層固める**

1月28日～1月30日の3日間、本山において道院長資格認定研修会が行われ、21人が受講した。

本研修会では、今後道院長になるにあたっての志や使命感および健全な道院運営における理念や危機管理の必要性について講義が行われた。併せて4月に施行する組織機構改革に関連した講義も重点的に行われた。

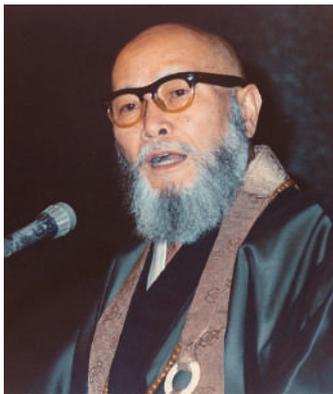
「決意表明」というテーマで行われたグループ討議では、道院長を目指した決意や道院の今後のビジョンを互いに発表し、意見を交わし合うことで、受講者それぞれが、道院長への決意を一層確固たるものにできたようである。

受講者は、講義においても審査においても、一挙手一投足、気を引き締めて研修会に臨んでいた。組織機構改革の本番を控えた今、道院長となることを目指した21人の今後の活躍に期待したい。  
(富田雅志)



NEWS 活動報告

**投稿大募集** 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛  
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp  
※投稿記事は400字を目安とし、名前、所属、連絡先を忘れずにご記入ください。  
なお、誌面の都合上、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。ホームページには誌面以外の投稿も掲載しています。



## 開祖語録 ダイジェスト

1967年8月  
指導者講習会

# 清風

vol.16 宗務局長 田村 明

## 以備待時 以時興事

「以備待時 以時興事」、この意味は「備えを持って時を待ち、時を待つて事を興す。(周到な準備を整えて好機の到来を待つ。好機到来と見るや、ただちに行動を開始する)」、中国の古典「管子」の中の言葉である

「いざ」といふとき「今がそのとき」など、決心して出るときが誰にでもある。いつ自分の出番が来ても大丈夫、準備万端整っている、指導者な

らそうあるべきである。日々精進して、勉強してどのような状況でも対応ができる、そうありたいと思う。何時どのようなときでも、自分だったらこのときはこうする、このときはこう話す。いつでも自分に置き換えて状況設定をする心構えが必要である。ただ漫然と待つのではない、チャンスを見逃さずタイミングを図ることも、能力の一つかもしれない。

さてこの準備のことであるが、単に心構えだけではなく、日ごろからの勉強が大切である。自分は何をすべきか、何ができるのかなど絶えず自問自答し、勉強に励むことが指導者のあり方ではないかと思う。ここでは謙虚に待つという姿勢も必要であり、いつでも補佐できる状況に自らを置く。また、いつでもリーダーになれる心構えがあるということではないだろうか。

せっかくなのでこの世に一度だけ生まれてきたのだから、自分という存在に意義がある、そういう生き方をしたいではないか。

ただ飯食って何となく生きていてだけというのではダメだ。世の中のために役立つためにはならない。

そのときに、組織つまり人間の結合体は重要です。どんなに多くの共鳴者や支持者がいたとしても、組織化していなければ、単なる羊の群れにすぎない。一匹の狼にかく乱されてしまうおそれがある。

「烏合の衆」ともいいますね。つまりカラスの集まりみたいなもので、石一つ投げたらワイワイガヤガヤそれぞれ別の方へ逃げてしまう。

諸君の道院でも、門下生がどれだけいようと、道院長がみんなをしつかり把握していなかったらダメだということ。それが組織化ということ。それ。

ただ入門書を書かせたとか、判を押させたとかが組織ではない。門下生みんなを把握していなかったら、組織というものは存在しない。

どんな組織でも、その維持・発展にはさまざまな困難が伴いますが、しかし我々には具体的な人集めのための少林寺拳法と、理想境建設とい

## 組織を生かすということ

う思想的内容があります。組織化には有利なはず。それは具体的に言えば、組織の中心になる各単位のリーダーが、使命感に根ざした熱意・識見を持つているということ。同時に、その熱意・識見が奉仕精神に基づいた実践行動を伴わなければならない。

それは自分だけが儲け、楽をし、自分だけが得をする生き方ではありません。半分はやはり人のため、社会のために役立つということ。それが奉仕する心なのです。

# 言葉に尽くせぬことを 伝えるということ

「間違った技などというものはない」という言葉が、地方の武専で指導中の先生の口から出た。

拳を学ぶに際して、私たちは師の格に至ることを、第一とする。師の形に己の動きをなぞらえようと努める。開祖の人間観を感じさせる具体的で、学習・修得に共通する訓えが、まず、まねることである。これに従って、私たちは師から学び、後輩にまず形を教えようと努める。勢い、「それは違う」「こうしなければならぬ」という言葉となる。どこが違う、どう身体を操作すべきか。考え、試行し、省み、修正し、行うことを繰り返すことによって、意志と動作、心と体を変えて育てる。それ故このことを易筋行えいきんぎょうという。教える人にも、「問い」が生じる。「自分は自分が言うように動いているのか」、「なぜそれは違うといえるのか」どのような理由でそうすべきなのか」と。私たちが教えることができるのは、内容と教え方を誠実に組み立てようという努力と、誠実さだけでは許されない危うさを自覚しているからである。そして、自らにも同様のことを問うているからで

もある。そして、人は正しい努力によりよく変わりえるという法を信じる修行者の集まりだからでもある。教える人にとっても易筋行なのだ。

私たちが修行に際して準拠すべきことは、新入門者にも「修行の心得」として示されている。8項目に整理され、修行目的を第一に掲げ入門者にその意志を問う。この修行目的に合わぬものは、この道に入る必要はないと。これは開祖の強い意思の表れであろう。「三徳」を求めるだけならば、他の武道や何かでもよい。人として尊厳が守られる理想社会を実現するという目的のために積極的な行動ができる自己に変革しようという意志のないものには、少林寺拳法の修行をする意義はないというのである。

修行の心得は、反復した身体への定着の前に「理を知ること」を掲げる。自分と師との身体的個性を置き、まねるといふ行為にも、その技の理法を知ることが必要であるという。この意は修練を重ね、さまざまな人の技を学び、また指導することを通じて、理法を見出すこととあり、教える立場に立つもの



は、形にある理法を示せということであろう。少林寺拳法は、他者とのよき関係を作り社会性の育成を目指し相対演練を主とする。自己の心深くに入り込み自己の本性を問う個としての修練ではない。天与の才豊かならざるものでも、その理、法に従えば必ず上達しえる道であり、我と宇宙が一体化する個を求める道ではない。理法を知ることが目的ではなく、理法に従って己を変えることが目的である。

であるならば、そのやり方ならどうするほうが理法に合うのかを語れる力が、結果以上に過程の評価が、また異なることの強調以上に共通する理法を理解する力が求められているのではないだろうか。これが今の私の師の問いかけへのささやかなご回答である。

「不立文字・教外別伝」。言葉はすべてを伝えきれない。しかし言葉を通じて伝える努力を怠るわけにはいかない。



# 良好な関係で 社会とのつながりを

山口周防道院道院長 山本晃正

禅の公案集『無門関』に、次のような問答がある。

新入りの僧が師匠に教えを乞うた。

新入り「一つ尊いおししを頂きたいと思

ます」

師匠「食事は済んだか」

新入り「はい」

師匠「それでは、茶碗を洗っておきなさい」

このとき新入りの僧は悟りを得たという。

この問答は、仏法が日常生活とはかけ離れたところにあるのではなく、日常生活の隅々にあるのだということを示している。このときの「茶碗を洗っておきなさい」という気づきのきっかけとなる言葉を一転語という。一転語という言葉は禅の公案に見られる言葉であるが、この気づきの言葉は日常的な簡単な語句であることが多い。

金剛禅でも日常的所作の意味の重さを説いており、作務は重要な修行と位置づけられ、脚下照顧は新入門者に対して最初に教えることの一つになっている。修行とは、やろうと思えば、いつでもどこでも誰でも取り組めるものである。ただ金剛禅ではこの先があつて、ここから先が金剛禅の金剛禅らしさとい

える。それは何かというと、門信徒一人ひとりの社会との接続関係である。地域、家庭、職場、学校などでの門信徒の位置づけ。つまり良好な関係で社会と接続しているかどうか重要だということだ。このことは少林寺拳法の創始の原点が、「人づくりによる国づくり」であることと深く関わっている。

『少林寺拳法教範』第一編は「拳禅一如、力愛不二の法門、金剛禅について」、第三編は「少林寺拳法について」とそれぞれ題されている。ここでは、創始の経緯や、他教団、他武道などとの差異性が繰り返し繰り返し述べられている。特に第一編において、開祖が金剛禅の原形をイメージされたときには、「現実の組織化された仏教教団の中には、そのようなものは一つとして存在している様子もなかった」(上巻29頁)とある。金剛禅が新しい道であること、独自性を持ったものであることが強調されている。それでは金剛禅、少林寺拳法の独自性、他との差異性はどこにあるのかというと、それは社会との接続関係を重視している点になるだろう。この点において、この道が今までになかった新しい道だといえるのだと思う。

翻って2011年、現代に同じような教団・武道団体・社会教育団体があるのかというと、私の知るかぎりでは「一つとして」存在しているようには思えない。少林寺拳法創始から60年以上。社会は変転している。こんなとき私たちは、他との差異性を失うべきではない。

世界のあらゆる文化は、歴史の流れの中で異文化を受容し変容してきた。差異性は自文化への誇りとなるが、多くの場合国粋主義と結びつく。しかし歴史の流れに逆らうことはできない。いかなる文化も排除の論理で存在し続けることはできない。

組織改革真ただ中であるが、少林寺拳法グループは日本のみならず世界的変化を受容しようとしている。文化の歴史的な流れを見ると、これからは私たちは社会の変化を受容し変容を続けるだろう。この受容と変容の契機となるのは、実は少林寺拳法創始の原点であると私は考えている。私たちのアイデンティティである「人づくりによる国づくり」——社会との接続関係こそが、受容と変容の契機となりえる。その意味でも少林寺拳法創始の原点を忘れてはならない。

ダイジェスト



# 志をつなぐ

vol.1

くほ ひろし 久保 博 63期生  
大導師大範士九段

私は上京した当初から、自分で事業を起こしたいという目的がありました。田舎で少林寺拳法二段を取っていましたが、まさかそのときは自分が道院を出すなんて、夢にも思っていないでせんでした。それがいつの間にか指導者となっていた…私の人生において、これ以上の影響を受けたものはありません。金剛禅という一つの大きな縁に感謝しています。不思議と必要な場面になると開祖

## 教典は私にとつての道しるべ

の言葉がふつと思ひ出されます。やはり学問的に教えを学ぶだけでなく、実践して生活の中で生かすことが大切。教典には少林寺拳法の教えが凝縮されています。まず自分は求道者である意識を持つこと、すると自然と変わっていきます。

※プロフィール、少林寺拳法が無名時代の東京での布教活動や開祖との思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▶開祖の前で演武をしたのはこのときを含め2回



◀上京した開祖を東京道院の仲間で囲む

ダイジェスト



道院長

vol.1

# 元気の素

みえ つひがし 三重津 東 道院  
道院長 濱崎 哲也 (46歳)

まず指導者がキラキラ輝いてること  
経済豊か、時間豊か、思い豊か、  
3拍子そろったコミュニティづくりが夢

—道院での指導方針は？  
夢を具体的な目標に置き換えるためのプロセスを指導することを心がけています。現在の立ち位置と目標の明確化をすることの必要性について、繰り返し話をするともに行動させるように努めています。

道院は宗教活動、すなわち人としてよりよく生きる方法を教える場で

す。そのためには、道院長や幹部がキラキラ輝いていることが大切です。無限の可能性があると語る道院長を見たときに、それは本当だと思ってもらえるよう、絶えず自分磨きをしておく必要性を感じています。

※プロフィール、道院長になろうと思っただきつけ、道院長冥利など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



## 災害支援関係

### 義援金

**支援先**：支援対策本部が、被害状況により、被災者生活支援ならびに復興事業に活用していただけるよう、適切な配分を検討し、少林寺拳法各県連盟、被災地区県庁、日本赤十字社などに送金します。

**報告**：総額と配分などについては、公式ウェブサイトにてご報告いたします。なお、振り込み手数料は、別途のご負担をお願いいたします。

**注意**：送金の際は、送金者名(教区名、連盟名、所属名、個人名など)を明記ください。

#### (1)銀行振込 [受取口座]百十四銀行(ひゃくじゅうし)

多度津支店 普通預金 0917491

少林寺拳法 東日本大震災義援金 代表 新井庸弘

#### (2)郵便振替 [受取口座]ゆうちょ銀行

番号 01610-0-84671

口座名称 一般財団法人 少林寺拳法連盟

※他銀行から振り込む場合は、下記をご指定ください。

ゆうちょ銀行：店番：一六九(イチロクキュウ)店(169)

当座預金：口座番号：0084671

#### (3)本山、本部の募金箱

[連絡先]総務部門 丸山登、宮本公己

TEL 0877-33-2020、E-mail: info@shorinjikempo.or.jp

### 物資支援

・行政機関等を通じての、物資支援にご協力ください。

・少林寺拳法グループの支援体制は、道路復旧状況を見据えて判断し、後日ご連絡します。

[連絡先]支援部門 向田弘之、片山真司

TEL 0877-33-2020、E-mail: info@shorinjikempo.or.jp

### 生活・学習支援

・禅林学園では岩手、宮城、福島県などの被災された拳士およびご家族の方の受け入れを行います。学生寮に男子16名、学生会館に女子10名の受け入れが可能です。特に学業に差し支えが生じている就学者(中学生、高校生)については、学習などのサポートを行いますのでご連絡ください。

[連絡先]禅林学園 高橋直美

TEL 0877-33-0044、E-mail: zenrin@shorinjikempo.or.jp

### 被災者受け入れ

・少林寺拳法グループでは、本山施設(職員寮など)にて本震災の被災された拳士およびご家族の方の一時受け入れを行います。詳細につきましては後日ご連絡します。

・同時に、各地域で被災者の受け入れを行っていただける、全国のホストファミリー(所属長、拳士、関係者不問)も募集いたします。こちらも詳細につきましては、後日ご連絡いたします。

[連絡先]被災者受入部門 鈴木仁、永安正樹

TEL 0877-33-1010、E-mail: info@shorinjikempo.or.jp

## 各種行事開催および対応

### 年間行事予定表記載の行事開催

#### ◆5月の開催行事

・5月～ 道院長研修会 ⇒(実施)出席可能な方 (SKP推進会議、V-UP II補講含む)  
※震災の影響を考え、北海道地区での開催(7/9・10、札幌市)。→受講者対象の特昇を7/8に実施します  
※1～4次の前日の特昇においても、当初の予定どおり実施します。

・5/29 帰山 ⇒(中止)個別対応は可能

#### ◆6月の開催行事

・6/26 特別昇格考試 ⇒(実施)  
・6/26 宗認証式 ⇒(道院長研修会時に実施)

※各地方行事の開催は、各主催者にてご判断ください。行事開催の場合は、震災被災者・地域への支援・復興に関する対応にご配慮ください。7月以降の行事は、後日ご連絡します。

### 地方考試員・審判員講習会実施について

被災された拳士はもとより、被災救援・復興支援などによる職業上の事情により、2011年度考試員・審判員講習

会が受講できない受講対象拳士に対して、以下のとおり特例措置を設けます。

- ①2010年度の考試員・審判員資格の有資格者は、自県・他県を含む後ほどの受講を前提として、考試員・審判員資格の任期を延長します。
- ②震災により考試員・審判員講習会が実施できなかった都道府県については、4月以降の実施も認めます。
- ③震災により受講できなかった拳士を対象とした補講の開催を認めます。

### 昇段・昇級考試実施について

震災による被災、または救援・復興支援により、3月に予定していた昇段・昇級考試が受験できなかった拳士について、以下のとおり特例措置を設けます。

- ①上記理由により、受験が延期となった拳士に対して、旧試験制度での実施を6月末まで認めます。
- ②3月に一般3級受験を予定していた見習い拳士の場合は、4月以降も6級ではなく、3級の受験を認めます。該当拳士がいる場合は、あらかじめ本山までご一報ください。

## 2011年2月度 認証

●新設	八代白鷺道院	木村 俊介	滋賀皇子山道院	岩本 剛	倉敷西道院	板谷 茂雄	
富良野光明寺道院	青木 賢隆	鹿兒島霧島道院	横山 春一郎	大阪高槻道院	北野 裕士	徳島美馬道院	妻形 淳
伊勢崎東道院	石田 浩一			柏原旭ヶ丘道院	酒井 信人	本部道院	浦田 武尚
野田川間道院	古嶋 賢幸	●道院長交代		大阪狭山道院	山崎 武宏	福岡伊都道院	西村 久夫
代々木上原道院	大澤 隆	石狩花川道院	大沼 英男	神戸山の手道院	青山 裕昭	長崎多良見道院	高橋 正義
厚木東道院	飯田 真弘	黒石道院	齋藤 透	小野道院	賀内 重善	御船道院	緒方 公
ひだ菰原道院	老田 尚	八王子南道院	山口 芳幸	芦屋道院	田中 英将	菊池道院	高山 毅
京都長岡道院	篠井 米藏	尾張小牧道院	相谷 直善	神戸東道院	八木 康光		
唐津西道院	池内 一文	四日市龍王道院	関森 隆治	田辺東道院	講初 修		

## 僧階昇任者

### 中導師

#### ■2010年12月1日付

石川 奈々恵(埼玉本庄道院)  
野口 正登(千葉松戸道院)  
森迫 剛(茨木東奈良道院)  
平松 義雄(岡山大福道院)  
黒木 豊(大分春日道院)

#### ■2011年2月1日付

西川 明輝(東京月島道院)  
渡部 菜穂子(山口厚狭道院)  
■2011年3月6日付  
池田 明史(専門学校禅林学園)

### 権中導師

#### ■2010年12月1日付

内田 泰啓(石神井東道院)  
岩本 秀雄(川崎麻生道院)  
古川 智規(川崎麻生道院)  
高橋 弘隆(柏崎道院)  
香月 亨一(名古屋桜道院)

長澤 政一(江南道院)

塚原 弘義(尾張旭南道院)  
伊藤 公昭(松阪西道院)  
中澤 昭則(松阪西道院)  
高橋 拓也(明石道院)  
森山 史朗(福岡大川道院)

## お布施

▷森道院長を祝う会実行委員会	40,000円	▷東京都教区	10,000円
▷大阪富木道院	30,000円	<b>総本山少林寺改修基金</b>	
▷境港道院 木村 弘史 支部設立30周年記念	30,000円	▷横浜慈眼寺道院 黒澤 正興 創立40周年記念	50,000円
▷徳島県教区一同	20,000円	▷福岡北道院 中村 秋尚	30,000円
▷香川県教区	10,000円	▷鳥取気高道院 大田 勝則	30,000円

## 2011年宗道臣デーについて お知らせ

東日本大震災により、2011年3月インフォメーションで発信した内容について、以下のとおり変更・修正をいたします。なお、宗道臣デーの活動の主旨は変更ございません。【問い合わせ先】0877-33-2020 向田弘之/飯野貴嗣

### 1. 企画の一部中止のお知らせ

・「フォト・コンテスト」、「ハート・コンテスト」は中止とします。

### 2. 企画の方針について

①身近な社会への関心を持ち、他人のこと、環境のこと、生きることなどを考え、行動することが宗道臣デーの方針ですが、特に今年は東日本大震災への復旧、復興支援につながる内容としてはいかがでしょうか。被災地には人手・物資・心……さまざまに援けを求めている人たちがたくさんいます。今、私たちにできることは何でしょうか。支援できることを考えてみましょう。

②ボランティア活動としてだけでなく、活動を通じて心を育む場となるよう企画を進めてみましょう。

### 3. 活動の事例

- ・地元でチャリティーバザーを開き、収益金を義援金にする。
- ・物資を集めて、被災地へ送る。

・地元での危機管理対策のキャンペーンや講演を主催する。

・被災地での支援活動(避難所の手伝い、被災地の片づけなど)を行う(ただし、受け入れ窓口への事前連絡などを必ず行うようにしましょう)。

### 4. 実施にあたって大切なこと

- ・実施前に、「何のための宗道臣デーか?」をリーダー自らがしっかりと押さえることが大切です。これをしっかり押さえずに企画を作っても、表面的な実施で終わり、学びが得られないでしょう。
- ・事前勉強会として「宗道臣デーのてびき」もぜひ活用ください。
- ・実施後は、皆で「自分がどんな気持ちだったのか」を話し合ってみましょう。
- ・リーダーは、皆の感想を受けて、次回の活動へつなげてください。

## 5月の本山行事

14日(土)~15日(日) 道院長研修会 1次  
15日(日) 開祖忌

21日(土)~22日(日) 道院長研修会 2次

## 6月の本山行事

11日(土)~12日(日) 道院長研修会 3次

18日(土)~19日(日) 道院長研修会 4次

26日(日) 特別昇格考試

## 報告

### 東京大田道院 瀬川伸一氏の件

2010年12月19日付にて、金剛禅総本山少林寺規則施行細則第7条第1項、ならびに金剛禅総本山少林寺資格規程第24条第1項により、以下のとおり処分する。

すべての資格を剥奪して、破門とする。

※一般財団法人少林寺拳法連盟におきましても同様の措置となっております。

編集後記▶新年度を前に春まだ寒い3月11日午後、歴史に残る大地震M9.0、大津波に東日本が見舞われた。報道より地震による避難範囲の規模の大きさはもとより、原子力発電所の事故を知り愕然。▶避難者、行方不明者、犠牲者の多さなど記録的大惨事、生き地獄のような現実、本当に慰めの言葉もない。▶復興に向けた支援で仲間として、日本人として、地球人として何ができるか。援け合いの輪を広げて行かねばならない。(あ)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！名古屋千種道院、中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶  
http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html  
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 16  
金剛禅総本山少林寺広報誌  
2011 年 月・水無月

2011年5月1日発行(奇数月1日発行)  
発行人：浦田武尚  
発行所：金剛禅総本山少林寺  
〒764-8511  
香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48  
☎0877-33-1010  
http://www.shorinjikempo.or.jp  
編集人：秋吉好美  
企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院  
〒170-0004  
東京都豊島区北大塚2-17-5  
☎03-5961-1400  
e-mail aun@shorinjikempo.or.jp  
印刷・製本：(株)ブル・ドック  
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆  
現在、広報誌「あ・うん」を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただきます。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円を承ります・送料別途要)  
TEL.0877-33-1010  
e-mail fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え  
一期一笑



イラスト/大原由軌子

東京羽田道院 白尾國宗  
縁

生後6か月の孫(次男の息子)がベッドから転げ落ち、大腿骨骨折で2週間入院、ギブス1か月という大怪我をしました。そのとき、診てくださった大病院の先生が、なんと、かつて一緒に道院で修行していた吉川(愛称を込めて呼び捨て失礼)だったのです。

私はもとより、長男と次男も小学生のころから倉田道院長の大森道院でお世話になりました。それから20数年、現在私は縁あって村上先生の東京羽田道院を引き継ぎ、息子たちも別の道院へと移っています。小学生から高校直前まで、吉川と次男は組演武を組み、時には東京都大会で最優秀を取った仲でした。次男の話では、練習時よく悪戯(いたずら)をして私に

ひっぱたかれたというのですが……私は全く覚えていません。20数年前、医者になりたいので少林寺拳法を辞めると別れたときは、もう会うことはないだろうと思いました。

それが運命の出会い。昔の少年拳士がいつの間にか整形外科の先生になっていたとは。「少林寺拳法から離れても思想は忘れていません」と、泣かせるではありませんか。親の不注意で下手すると後遺症が残る足の怪我を「私に任せてください」と力強い言葉で励まされ、親身になり面倒を見てもらっています。

この文章が掲載されるころには、孫も退院し、きっと吉川と昔を懐かしみながら私の家族と楽しいお酒を酌み交わしていることと思います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっといい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛  
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

## 宗門の行としての少林寺拳法



Goka Ken, Katate Nage  
ごかけん かたてなげ  
五花拳 片手投

片手投は、仕掛けの技法である。仕掛け技を修練するにあたっては、特に相手の機先を制し、虚を捉えるコツを会得するよう心がけたい。捕り方としては、相手の右手首に我の手を引っ掛け、外側から内へ腕を捻じりながら、左足を深く踏み入れて身体を反転し、左膝をつき、肘を上げながら、手首を殺して引き落とす。体捌きは二足全転換で、自分の身体が相手から離れず、内に入り込むように沈み込むとよい。

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 大拳士六段